

僕の日に3回のオナニールーティンが
日に3回の母さんとの
セックスライフに変わった日。♡



「どうだい...?」
「うん、そうだねえ」
「おちんちんの先っぽが熱い」
「そろそろイクかい?」
「もっと早く動かしてみよう」
「いいよ、いつでもいい」

「.....」
「か、母さん、
熱い...よあ...」
「アソコの...先が...」
「あ、熱...ああ...」
「うっ、あっ...ん...」

「うん、うん」

「うん、素直だねえ!」
「もう、っっそり母さんのお風呂を覗かなくてもいいか
いつだってやってあげるよ!」

「どうだい...?」
「母さんの手、気持ちいいだろう?」
「自分でやるのと、母さんにやってもらうの、どっち
いい?」
「か、母さん...のが...気持ちいい!」
「うん、うん」

みとれいゆ

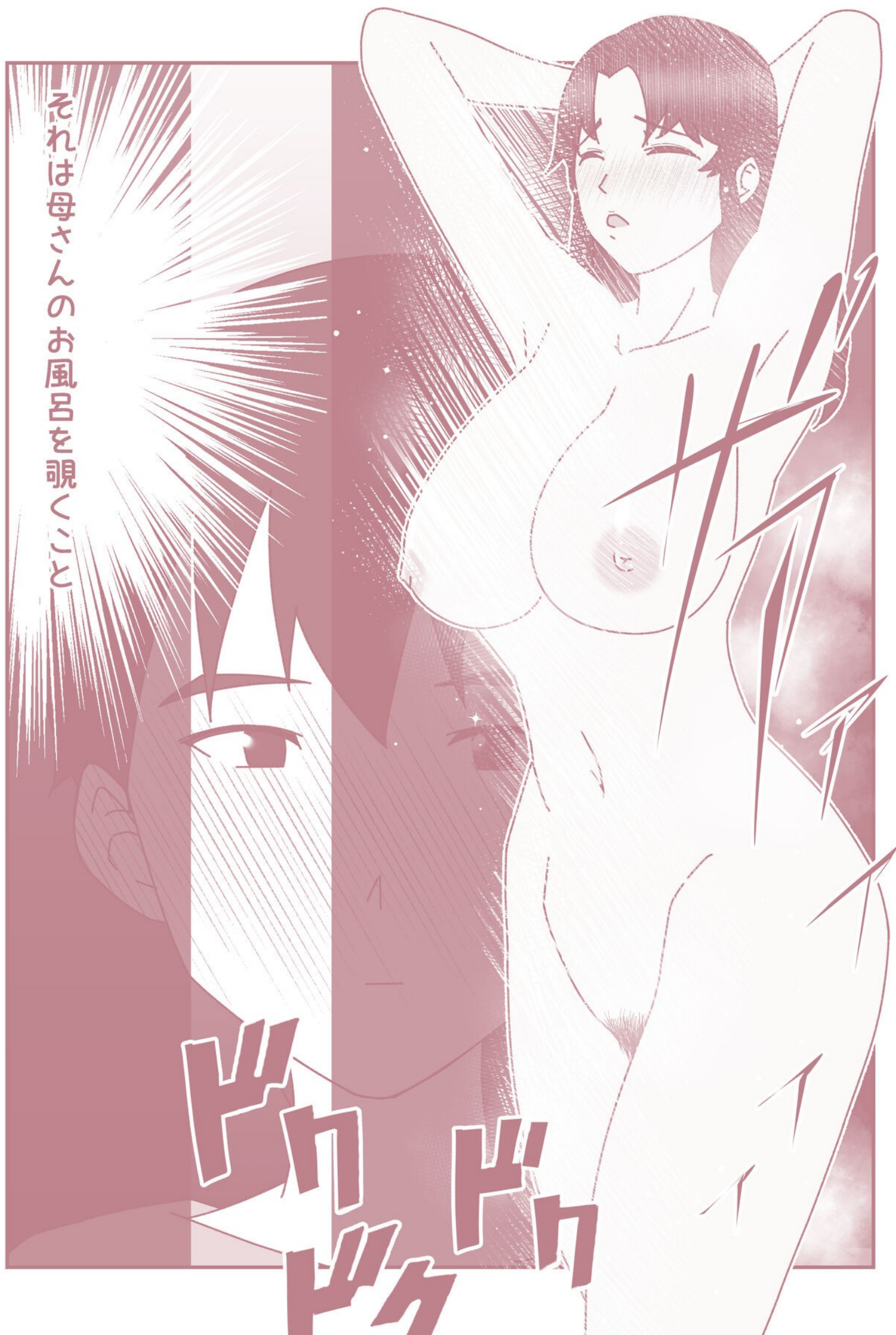
僕の日には3回のオナニールーティンが
日には3回の母さんとのセックスライフに変わった日。



僕の名前はショウタ
某有名進学校に通う学生です
僕にはとある日課ルーティンがあります

それは母さんのお風呂を覗くこと

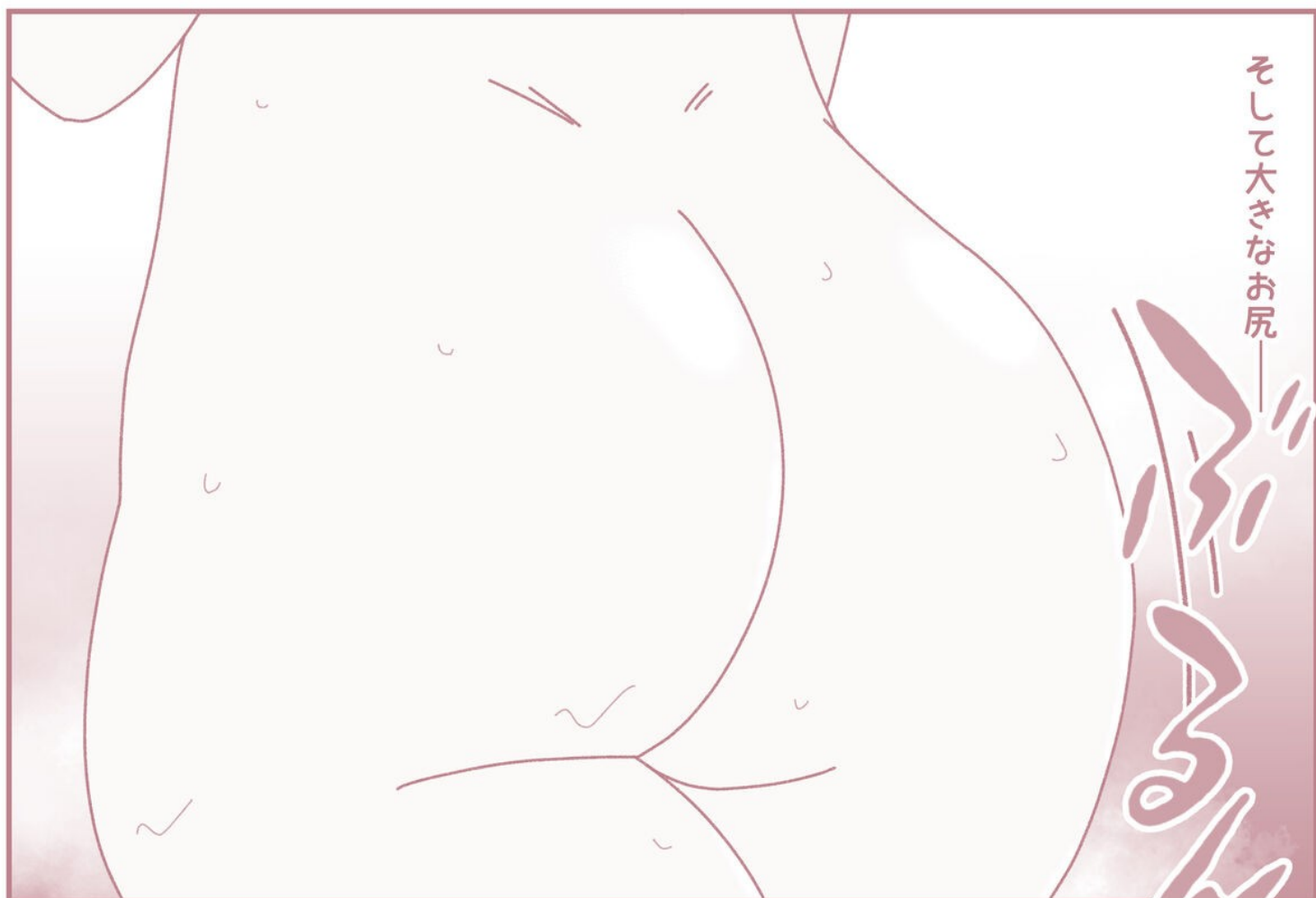
ドン
ドン
ドン





母さんの大きいなおっぱい

はぁん



そして大きなお尻

はぁん

それらを見ながら、
さっきまで履いていた
母さんのめくもりが残る下着を使って
オナニーをするのです

はぁ

はぁ
はぁ

シッポ

うっ…!!

ド
ン
ッ



射精した後は、僕の精液がべったり付いたまま
下着を洗濯機に戻します
洗濯機を回せばバシないはずだから。。



※ただ、母さんが洗濯の前に
それに気が付いていたのは後から知りました。。

更に僕のオナニーは続きます
寝る前にさっきお風呂で見た母さんの裸を
思い出しながらまたオナニーをし――

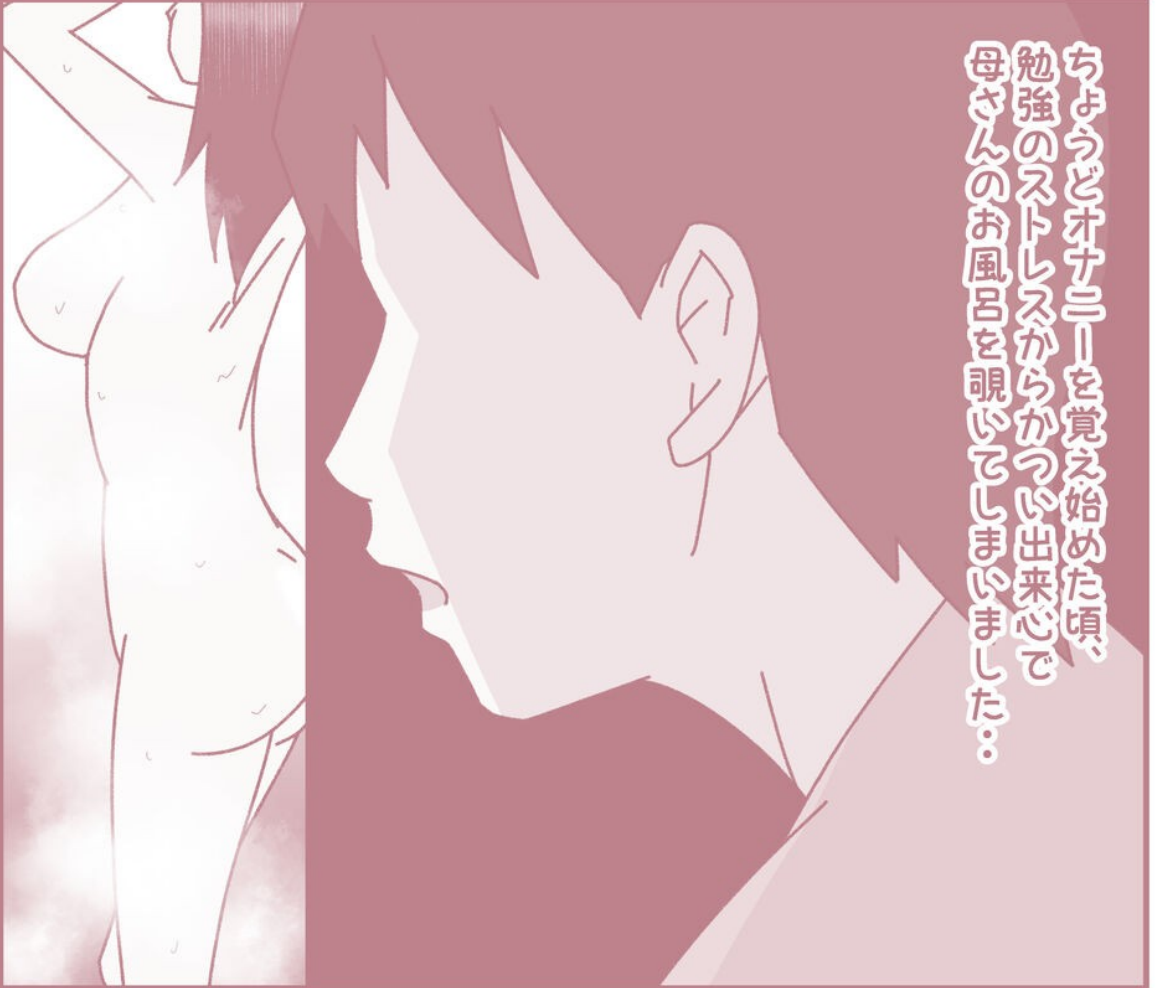


朝起きたら直ぐに母さんの裸を思い出しながら
またオナニーをします

なので、僕は常に悶々としながら、
少なくとも一日に3回は母さんをオカズに
オナニーをしています



ちやうどオナニーを覚え始めた頃、
勉強のストレスからかつい出来心で
母さんのお風呂を覗いてしまいました：



以来、この10年3回のオナニーが
僕のルーティンになってしまったのです。

ところで、先日、学校で三者面談がありました

来る受験勉強に向けて先生から母さんに、
「最終的に受験に成功するか失敗するかは本人の
実力次第ですが、何よりも家族の協力や応援が必
要になります」
お母さんお一人で大変かと思いますが、シヨウタ
君に出来得る限りのサポートをお願いします」
と言っていました



そんなある日――



「母さん、やることあるから
今日は先にお風呂に入っておいで」

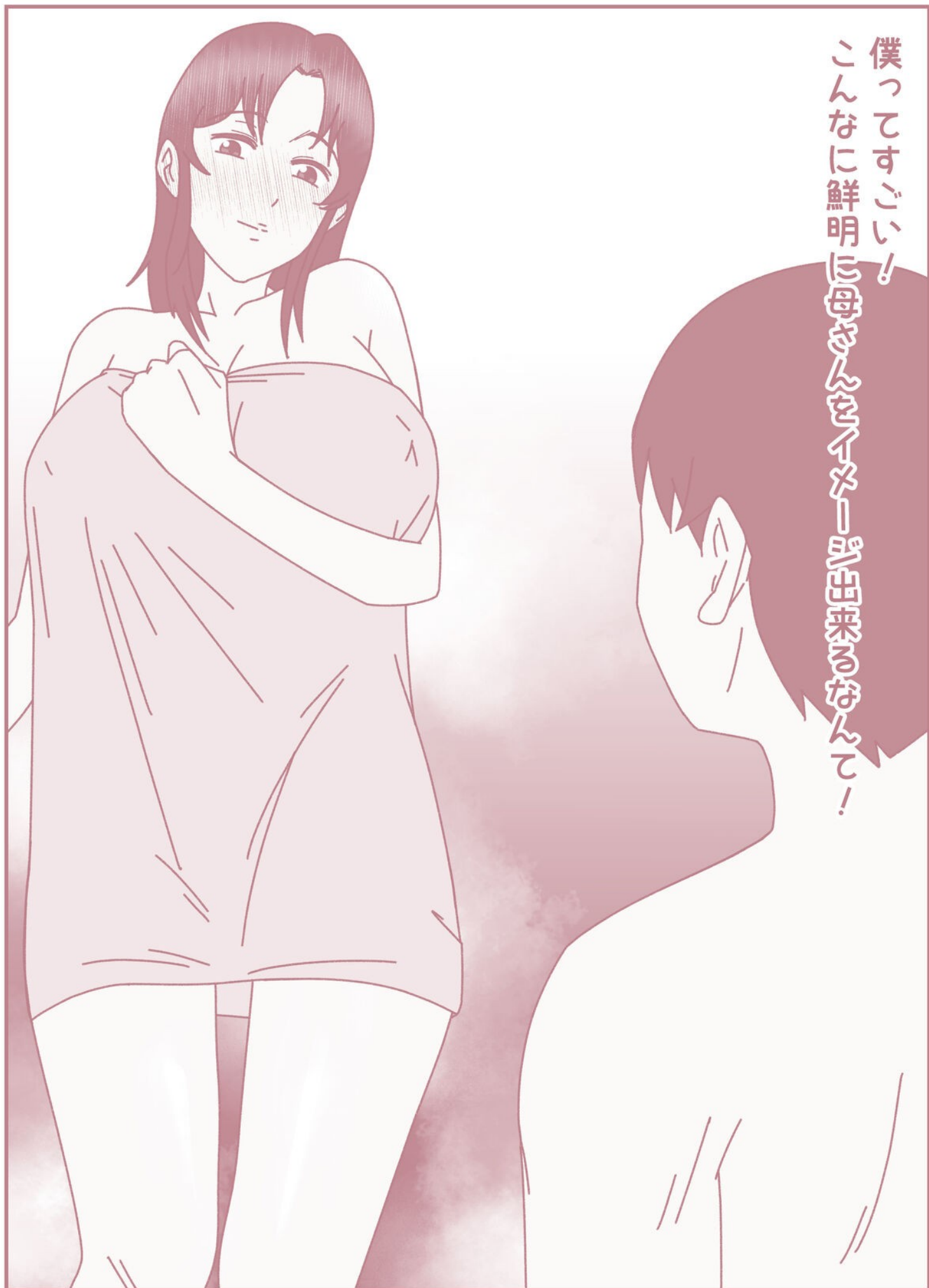
若干いつものルーティンが崩れたけど、
まあ、別に構いません



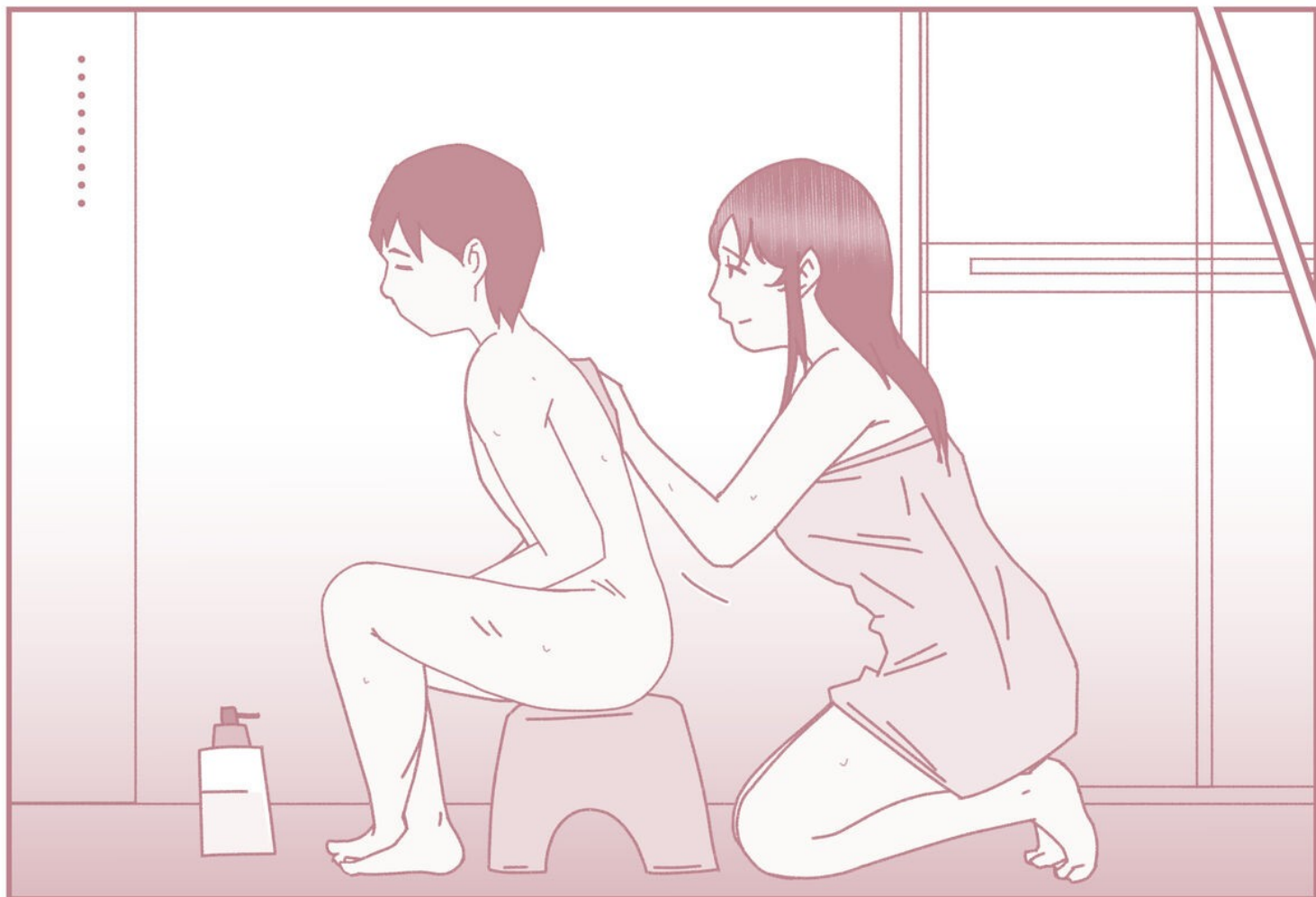
だって、母さんの裸はいつだって思い出せるから
何度も見て、もう目に焼き付いています



僕ってすごい！
こんなに鮮明に母さんをイメージ出来るなんて！

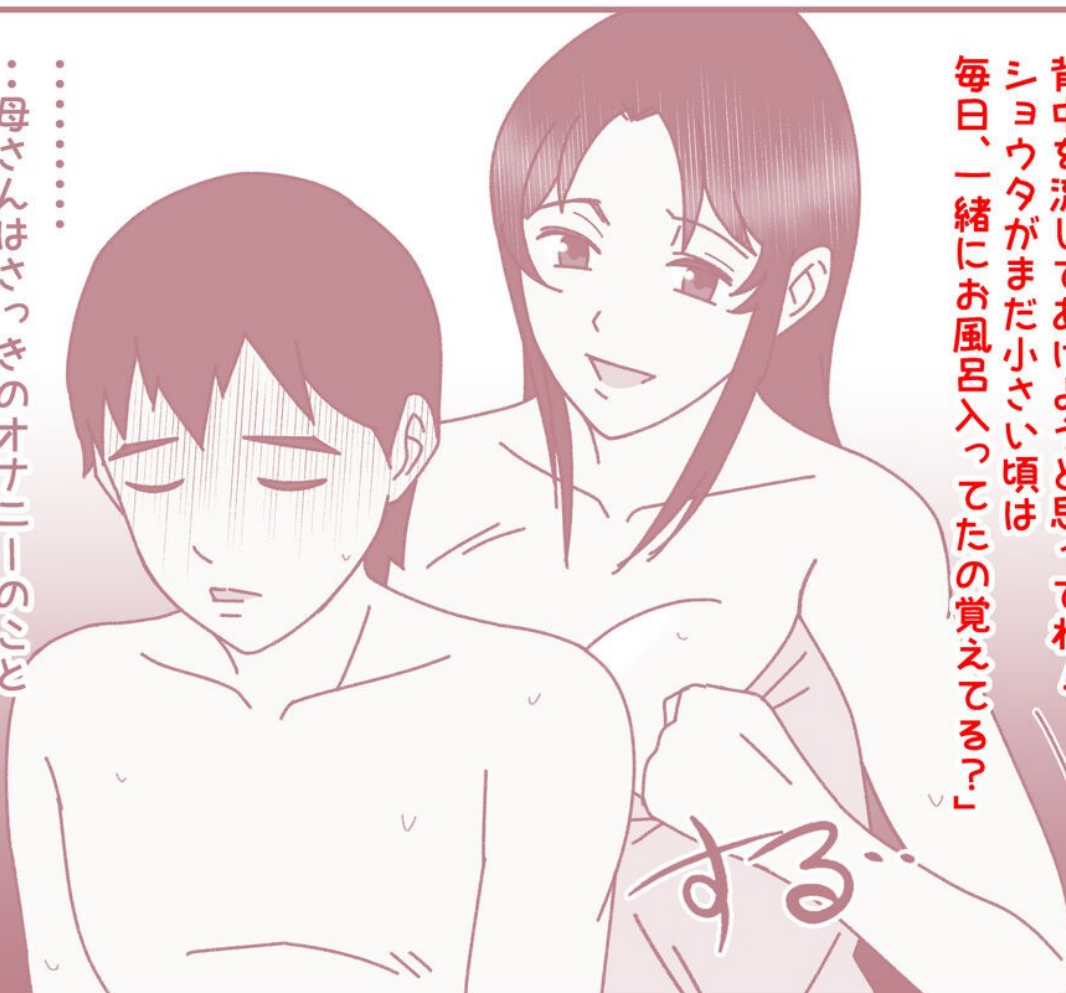




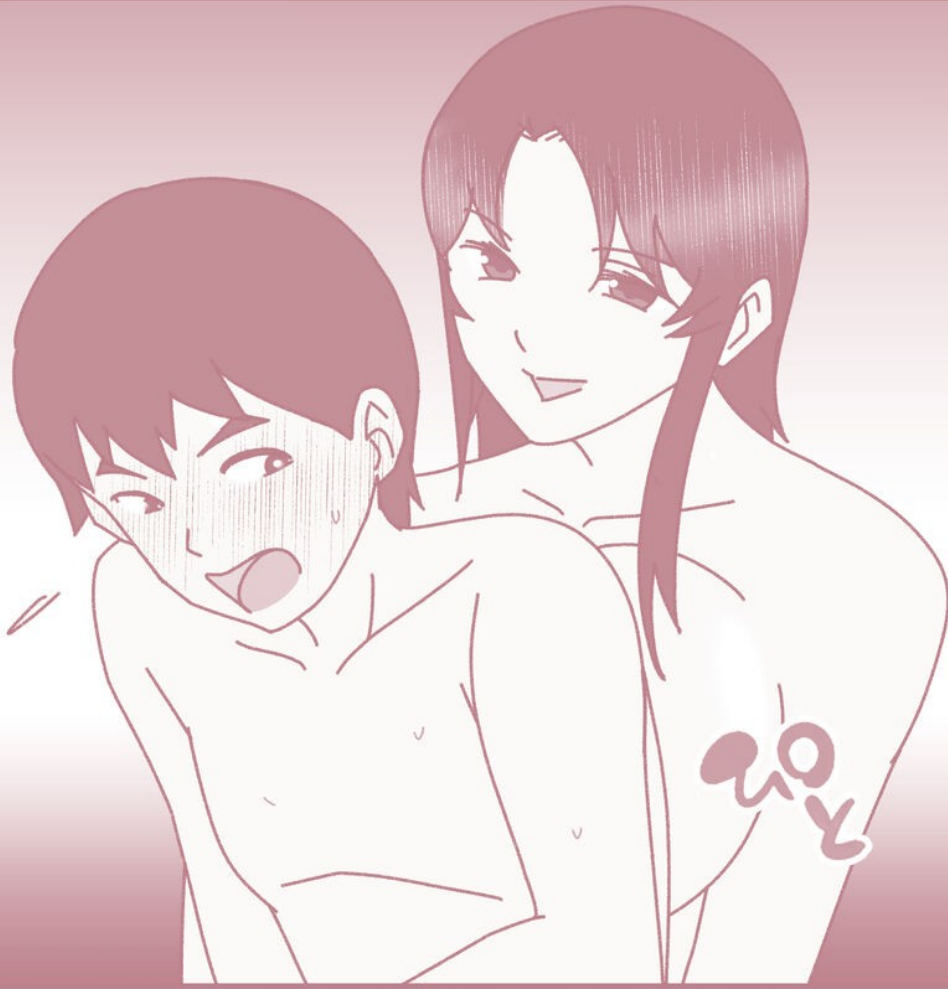


「ふふふ、今日は久しぶりに、勉強の疲れも一緒に、背中を流してあげようと思ってね！ ショウタがまだ小さい頃は毎日、一緒にお風呂入ってたの覚えてる？」

.....
：母さんはさっきのオナニーのことギリギリ気付かなかったのかなあ...？
もしくは、気付いていないふりをしてくれているのか...？
だったら、気まずいなあ...
ううっ、早くお風呂から出たい...



「でも、いつの間に
こんなに大きくなったんだろうねえ」



えっ…!?

おっ…

ぱいが…

!!!

ぷるんっ

あ、当たってる…!?

おまっ

「どうしたのかなあ〜?」

「か、母さん、ちよ…」

さっきから…

こ、これ…

ちよっと恥ずかしいよね…」

「何言ってるの?」

親子なんだから別に恥ずかしがること
ないでしょようにい〜

・ほらっ!」

にぎっ!

かっ…か、か、か、母さん…!?

「母さん、実は知ってるんだ！
シヨウタが毎日毎日母さんのお風呂を覗いて
このオチンチンで母さんの下着に射精してること！」

.....!!



「その後、布団の中でもやってるでしょ！
夜も朝も！お猿さんみたいに！
母さんの裸を思い出しながらやってるのかなあ!？」

「母さんね、シヨウタが進学校に合格して
とても誇りに思ってるんだよ！
ほら、母さん、若いときお勉強が出来なかったし、
3年前に死んだ父さんも
決して賢い方じゃなかったからね。」



「でも、シヨウタがお勉強でストレスを
抱えてるのも分かってる：

本当は母さんがお勉強を教えてあげられたら
いいんだろうけど、

母さんにはそれが難しいからね：

だから、それ以外のことで

母さんが教えてあげられることや、

シヨウタがして欲しいことは、

母さん、何だってやってあげるよ！」

ああああっ...か、母さん...っ!!

「ほら、横になってごらんなさい」

「どうだい…?」

「母さんの手、気持ち良いだろう?」
「自分でやるのと、母さんにやってもらうの、どっちが気持ち良い?」

「……………」

「…か、母さん…のが…気持ち良い…」

「うん、素直だねえ！」

「もう、っっそ母さんのお風呂を覗かなくてもいいからね！」
「いつだってやってあげるよ！」

「…う、うん」

「……………」

「…か、母さん、

熱い…よあ…

アソコの…先が…

あ、熱…ああっ…

うっ、あっ…んっ…」

「うん、そうだねえ、

オチンチンの先っぽが熱いねえ」

「そろそろイウかい?」

「もっと早く動かしてあげるね」

「いいよ、いつでもイっていいからね！」

「あああっ…、か、母さん、ぼ、僕もう…!!」





「ひゃあ、すごい量だねえ、
臭いもきつい！
：ああああ、この感じ・・・！」

はあ、はあ・・・
か、母さんが僕のをシゴいてくれるなんて・・・！
そして、今は僕の出した精子を
ペロペロ舐めてる・・・！
こないやらしい母さんの顔は初めて見た・・・





今日はびっくりしたなあ。
でも、母さんに覗きやオナニーのことが
バレてたなんて。

：母さん、僕のためなら何でもしてあげる
って言ってたけど、実際、明日から
どう接してしていけばいいのやら…

.....
：まあ、とりあえず、もう寝て、
明日、また改めて考えよう。
今日はいろいろと疲れたし、
これ以上正常な思考で物事を
考えられない。

.....

ひちやひちや...

「わっ…!?
か、母さん、な、何を…!?」

「あはは、ごめん…、起こしちゃったよね…
てか、シヨウタって寝る前にもオナニーするの日課だったのに、
今日はあっさり寝ちゃうの…?」

「…あのお、実はさあ…、
さっきお風呂でシヨウタの立派なアソコを見てから、
母さん、興奮が収まらなくなってるねえ…
子宮の疼きが抑えられないっていうか…
何気に母さんも欲求不満が溜まってみたい…(笑)」

「…ごめんね、シヨウタは初めてかもしれないけど、
ちよっとシヨウタの使わせてもらっていいかなあ…?」

「…えっ!?」

「ちよ、ちよっと待って!か、母さん、それは――!!」

ぴちやぴちや…

「ホント、ぐめんねえ…」

ずい

「あああああっ…久しぶりのオチンポ…!!
シヨウタの…私の息子の…大きいオチンチンが
あああああっ…挿さってくううう…!!」

びびびび

あああああああっ…一体全体何が…!!
母さんのヌルヌルしたオマンコに
僕のオチンチンが吸い込まれていく…!!

それにしても何なんだ、この感覚…!
アソコだけじゃなくて全身が母さんの温かさに
包まれていくような…

「ああああっ・・・最高っ!!
これって奥まで届くやつだあ・・・!!」

あああああっ・・・挿入った!!
全部挿入った!!
母さんのオマニッコに僕のオチンチンがあ——・・・!!



「ちよつと最初は母さんに動かさせてね・
あああつ、シヨウタのすごい・・!
奥のイイところにピンポイントで当たってるのお!!
流石、父さんの子だわ!!」

「か、母さん、僕も気持ち良いよお……!!」

「良かった、母さんもとつても気持ち良いよ!!」

はあ

：ああ、すごい、いつも遠くから見てた母さんのおっぱいが



はあ

今は目の前でこんなにも激しく揺れてる!!

한글

「ジヨウタあ、今度はジヨウタが動いてくれるかなあ？
おっぱいも一緒に揉んでくれると
母さん、もっと気持ち良くなれそう」

「う、うん…」

「ふふふ…」

「そう、とっても、あっ、上手よ…」

「はあああ…」

「この下から突き上げられる感じ…！
少しずつ早く…、
腰、あんっ、動かしてみようかあ…？」

「はあ、はあ…、
う、うん——…」

「ああんっ、ジヨウタ、あっ、そんなに
あっ、急に激しく、あんっ、突き立てなくても…！」

「あんっ！あんっ！
イイっ！イイっ！！
はあ

「母さんっ！！
母さんのオマニっ、気持ち良過ぎて
腰が止まんだいよあ…！！」

「はあ

「あはああんっ!!

ショウタあ、母さんのお尻を鷲掴みにしてえ——!!」

はあ

はあ

はあ

はあ

すごい!すごいっ!すごいっ!!

これがセックス:!!

オナニーなんかよ何倍も気持ち良い:!!

.....

はあ

:母さんいでも僕たち親子だよ:

:でも、本当は母さんとのセックスを

夢に見なかったと言えは嘘になる:

母さんのおっぱいやお尻を想像するだけでは飽き足らず、

母さんのオマニコに僕のを挿れたらどんなだろうって:

僕は母さんとのセックスを想像していつもオナニーをしでたんだ:!!

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



「ああんっ！
ビョウタ、キスしてえええ——！！」

「もっとお、もっとお、もっとお
突いてえええええ——！！」

あああっ、母さん
ちよ、待って。!! そんなに
締め付けられたら。!!

「…か、母さん、あつ…
ぼ、僕…、もう…、我慢が…でき…!!
あつ、イキそうだよ…!!」

「母さんも…、あつ、イツちゃう!!
あんっ、一緒にイキましようっ!!」

「ジヨウタあ!!
来てええええええええ——!!」

えっ…!?



「おねえ、母さん、中に出してよかったの…？
そのお…、赤ちゃんとか出来たり…」

「ああ、女性には排卵する周期ってのがあってねえ…
今後、そういうことも含めて
いろいろ母さんが教えてあげないとねっ！
避妊具とか、玩具の使い方とかも！(笑)
学校で教えてることだけが全てじゃないわね！」

「やあ、今日はこのまま
母さんと一緒に寝ようかあ？」

「うん…！」

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

僕の日には3回のオナニルーティンが
日には3回の母さんとのセックスライフに変わった日。おわり

はあ



あとがき

この度は、『僕の日』に3回のオナニルーティンが日に3回の母さんとのセックスライフに変わった日。』をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

どうでもいい話かもしれませんが、付けたタイトルに3の数字が2回使われているということで、下記の点に拘ってみました。

1. ページ数：33頁(当初は32頁でしたがおまけページを追加)
2. 販売日：2022年1月23日(当初は1月20日予定。理想は3月31日とか)
3. 価格：税込330円(当初は440円or550円予定^^;)

私の筆の早さは、カウ漫画50頁くらいであれば話作りから完成・販売準備まで一ヶ月なのですが、制作半ばになると、こんな作品出して売れるんだろうか・・・？買ってくれた皆様に「つまらなかった」と思わせるんじゃないだろうか・・・？といつも苛まれます。そして、いっそのことボツにして、一から話を考え直そうという葛藤を抑え込んで(次回作はもっとマシな話を描こうと胸に刻んで)、その一ヶ月をただただ乗り切ります。しんどいです。。結構、メンタルやられます。。これまでの人生で鬱になったことはなかったのですが、これが鬱ってやつなのかなあと思ったりします(鬱だとしても軽目でしょうが)。ということもあり、比較的短期間で制作出来るものはないかと、これまでと絵柄を変える試みで描いたのが本作になります(一週間ちょいで作った)。ただ、本当はもっともっとデフォルメして描きたかったのですが、絵柄を変えるって相当難しいものですね。。ちなみに、当初は絵柄を変えるので、別サークルを立ち上げようかと思っていましたが、結局、同じサークルで出しちゃいました。

気晴らしも兼ね、数ヶ月漫画を置いて、ゲームでも作ってみようかとも思っています(そっちの方が売れるかも!?何せ生活が掛かっているもので・・)。ゲームは別サークル??ちょっと考えます。

2022年1月
みとれいゆ

